

實
驗
日
本
修
身
書
卷
一
尋
常
小
學
生
徒
用

K120.1
55
1c

K120.1

55

1c

明治廿六年九月十八日
文部省檢定簿

三宅未吉校閱
中根吉編纂
渡邊政吉

實驗
日本修身書卷一
尋常小學
生徒用

東京 金港堂書籍株式會社

第一課 父母の

どりけものの
子の子を



れもふをみても、
父母

フ
ボ
チチ
ハハ

の、われらをあいするの
あつきをーるべー。

新日本修身書



第二課 孝行

ふさはつねに
父母のげふ
をたすけ、また

よくするのころをなぐさめ
たり。

父母のげふをたすくるは、
子たるものつとめなり。

第三課 孝養

ソフ 祖父
ソボ 祖母
デデ ババ

つかふるこゝろ
父母にひと



かるべー。

トウザウ 藤藏 は、祖母 の びやうき

の やまーんせりにかんせいの
せり。

第四課 兄弟



太四郎タシロウ 兄弟ケイテイ

は、むつまじく
まどはりて、

親オヤのころをなぐさめ
たり。

兄弟むつまじくして、父母の
ころをよろこばむべし。

第五課 兄弟

北條泰時は

ホウ
ダツ
ヤス
トキ

よく弟を

オト
ツト

いつくしみもの



を分つに、己れは、少くとり

ワカ

オノ

スクナ

て、弟には、多くあたへたり。

オホ

兄弟は、弟妹をいたはる

クイ
シ

テイ
マイ

ア
ニ
ア
子

オ
ト
ツ
ト
イ
モ
ウ
ト

こと、子のごとくすべし。



第六課 信實

信太郎シントラウはいらばり
 をかたらず、
 やくらくをたがへ

ずして、よく友トモたちと
 まじりたり。
 友だちにまじはるには、
 信實シンジツをだい一とす。

第七課 朋友

友だちになんぎ
あれば、たかひ
にたすけあひ



て、たのもしくすべし。

ナホキチ

直吉は、友だちのくわどに

てやけいとき、かねをか

て、ねんごろにたすけたり。

第八課 言語



言コトをつつコトバま
ざれば、わざはひ
をひきねこす

ことあり。チウサク勇作が、きやくの
心ココロをうこなひたるをみて
も、これをしるべし。
わざはひは、口クチよりねこる。

第九課

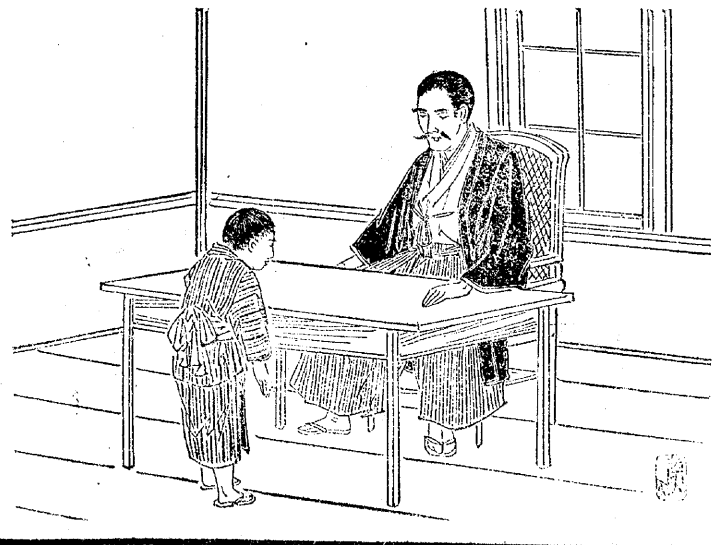
驕慢を
制す

ヒヤウスケ

兵助は、もの

ねぼけよき

こどもなり



ーが、かりまんの心ねこり
 て、がくげいをねこたり、つひ
 にーけんになくたいせり。
 まんは、ろんをまねく。

第十課 師弟

ワカバヤシ
レンシテ
若林新七はよく

レ
師 センセイ につかへ
がくもんをつとめ



て、なだかき人 ヒト となりたり。
師の恩 オン は、父にれなり、
よくうのたふせをまもり
て、うやまひつかふべし。



第十一課 温和

あらずはざるは、
人にまぐはる
のみちなり。

徳太郎^{トクダラウ}は、ねこなひ ただくく
て、人とあらずひ たること
なかり ければ、つひに人に
うやまはれたり。

第十二課 弘量

イタクラシゲマサ
板倉重昌は、けり

のため、たいせつ
のゆみををり



たれども、すこーもいからず、かへり
て、うの人をなくさめたり。

かんにん、のなるかんにんは、たれも
する、ならぬかんにん、するが、かんにん。



良

第十三課 過ちを改む

みのあやまちをなぐ
れきて人をあざむく
はよろしからず。

あることが、さうをわりて、かぐれなきける
が父のはなををききて、大い^{オホ}にこころを
し、なきて、すのつみをわびたり。
あやまてば、あつたむるにはほかるなかれ

第十四課 過ちを改む

あまちをあらたむれば、あまちなき人となる。



ホツギツヤストキ

北條泰時、人のあらうひをさばかんと
しけるに、その一人、自らあまちを
さとりて、あらうひをやめければ、泰時
これをほめて、はげびをあたへたり。



第十五課 勤儉

キンケン
勤儉はみをたて

ハタシケンヤク
いづををさむる
のもとなり。

シンシチ
新七はまづくろくして、人につかへ

が、よくげふをつとめ、つひにを

はぶきて、いづををたこし、つひにあまた

の人をもつかふみとなりたり。

第十六課 節儉

ド井トシカッ

土井利勝は、けんやく

の人なり。あるとき

くづいをひろひたき



て、わきぎのさげををつくらひたり。

わづかのものををも、すつゝから

ず、ようなきをきくにたは

て、ようあるをたをま

第十七課 仁慈



宇右衛門夫婦は

いふくたはたをうり

はらひてうゑなる人

をたすけ、またうのむすめも、いふくを
ぬぎて、こごはなる人にあたへたり。

己れあたたか なりとも、人

のさむさをねもふべし。

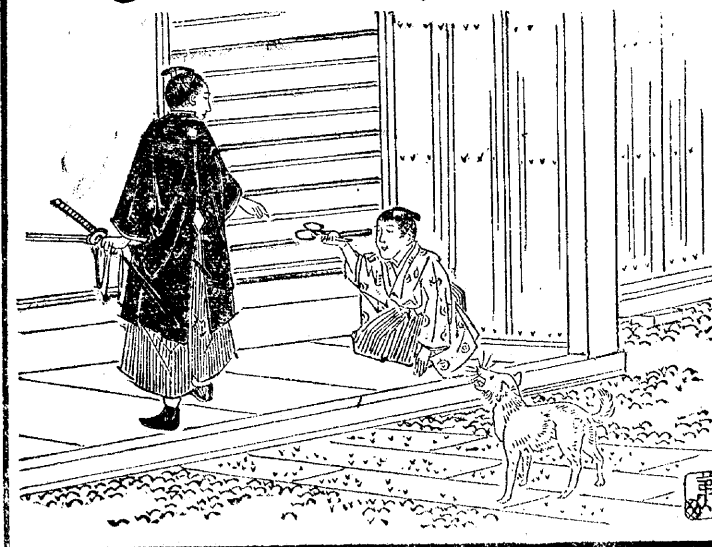
第十八課 仁恕

ヲカモトハンスケ

岡本半助は、しゅん

より、^{イヌ}犬のみみを

「きれ」といはれたる

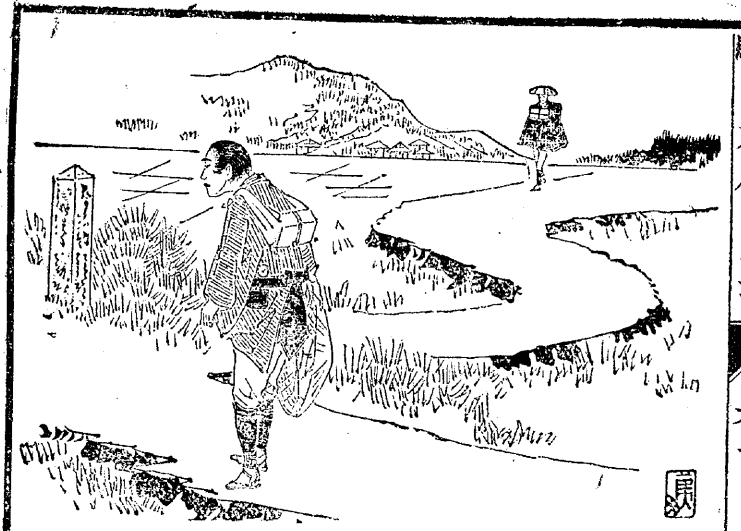


「まじせしみをもちいでて、まづこせん

より、こころみたまへ」といひたり。

わがみをつんで、人の

いたさをしれ。



第十九課 學問

よみかきをうらざれ
ばよろづのこゝに
ふどいらねほし。

タケシラツ
竹次郎といへる人は、みちへるべをよみ

はずして、みちにまよひたりとぞ。

かくもんは、よろづのこゝを

なうらるもせむなり。

第二十課 忍耐

むかーヲノノダウノダ小野道風と

いへる人ありかはづ

のやなぎのいだに



とびつきたるをみて、一んばりのたいせつ
なることをとまり、てならひをはげみ
て、なだかまてかまことなりたり。
れこたらざれば、なにごともなる。

岡治道

K120.1-55-18c

日本修身書 卷一

卷一 三冊 明治廿六年六月十日 印刷
 卷二 同 同 年六月廿七日 發行
 同 同 年九月三日 訂正再版印刷
 同 同 年九月七日 發行

尋常日本修身書生徒用
 定價 卷一金六錢六厘 卷二金六錢六厘
 卷三金六錢六厘 卷四金六錢六厘
 卷五金六錢六厘 卷六金六錢六厘

著作 渡邊政吉

發行 兼 印刷者 金港堂書籍株式會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表 原亮三郎
右社長 同 下谷區龍泉寺町四百十番地

賣捌所 各府縣特約販賣所

版權所有

此の書の字引



日本修身書字解

全一冊 定價金拾貳錢

園

治

道

石